

## 「剣闘士サンダル」の行き先は

たとえはドラマ『花より男子』の美しいシズカさんは言うのである。「女の子はとびつきりいい靴をはきなさい。そうすれば靴は自然とすてきなところへ連れて行ってくれる」

現実にはすてきなところにたどりつく前に疲れてしまったりするのだが、それはそうと、「とびつきりいい靴」に目覚めてしまった人が、違う世界に行ってしまうことが多いのはたしか。眺めているだけで飽きないからと何百足も買い集めたり、9センチヒールをはいて得られる崇高なる快感のために足の健康を犠牲にしたり。「靴は歩きやすくしてナンボ」という一般人

の感覚など無意味な別世界であることはまちがいないさそうである。

さて今シーズン、そんな靴フェチ世界の住人を色めきたたせているものに、「グラディエーター・サンダル」がある。ラッセル・クロウ主演の映画でおなじみの、古代ローマの剣闘士のはきものにヒントを得たサンダルである。

元祖の動きやすさを生かしたヒールなしの編み上げ型もあるが、デザインナーたちの苦勞がしのばれるのは、がっつんと高いヒールをつけて足全体（時にはひざまで）を何本ものストラップで覆うタイプ。セルジオ・ロッシの十数本のストラップの輪がつづく「チェー

## ＜ 中野香織の — コロモのココロ ＞

ン・グラディエーター」などは、メタリックな光沢のある素材使用で、トレンドの「フューチャー」にもマッチする。古代と未来の絶妙な融合。ストラップ間に透明ビニールをあしらったデザインも多い。食い込み緩和のためのいじましい工夫もビニールがフューチャリティックってことで今年らしく見えてくるから不思議である。

未来人気に乗じ、ビニール素材の平底ジェリーシューズも復活。「歩きやすくしてナンボ」界の住人を喜ばせるが、靴裏にブランドロゴをあしらった高級ジェリーシューズはシズカさんの。足跡にくつきりブランドマークが残るため、足跡の続く先をすてきな場所になくしては、というプレッシャーがひそかにかかります。(服飾史家)